

基本目標4

信頼される学校づくりの推進

1 「芯の通った学校組織」の取組の深化

■ 現状と課題

- 校長のリーダーシップの下、全ての教職員が目標達成に向けて組織的に教育活動に取り組む「芯の通った学校組織」の構築を進め、その取組が定着しつつあるものの、全学校・全教職員に取組が浸透するまでには至っていないため、更なる取組の徹底が求められます。
- 「芯の通った学校組織」づくりにあたって必要な学校マネジメントのツールを活用し、学力・体力の向上、生徒指導など各学校における教育課題の解決・目標達成に向けた組織的な取組を充実・強化することが求められます。
- 学校の目標や方針を家庭・地域と共有するなど学校教育の透明性を確保しつつ、三者による連携・協働の下、目標達成に向けて組織的な取組を行う学校運営が求められています。
- 少子高齢化や人口減少に伴い地域社会が変容する中、学校教育と社会教育が連携した、地域とともにある学校づくりが求められています。



■ 主な取組

① 学校マネジメントに係る取組の徹底・強化

「芯の通った学校組織」の取組が全学校・全教職員に浸透するよう、学校マネジメントに係る取組の徹底・強化を図ります。

<目標達成マネジメント>

- 喫緊の学校教育課題に即した重点目標設定や検証可能で具体的な取組設定の徹底
- 取組の発展と目標の向上に向けた短期の検証・改善サイクルの確立
- 目標の全教職員での共有化や教職員評価システムとの連動の徹底

<組織マネジメント>

- 目標達成に向けた主任の業務・役割の明確化など、主任制度の活性化
- 主幹教諭・指導教諭の配置促進を通じた組織体制の強化
- 運営委員会の活用推進などによる学校の企画・立案機能の強化
- 職員会議の役割の明確化の徹底

②教育課題の解決に向けた組織的な取組の深化

学力・体力の向上、生徒指導など各学校における教育課題の解決のため、縦と横の関係を意識した「芯の通った学校組織」の取組の深化を図ります。

- PDCAサイクルを取り入れた組織的な授業改善の推進
- 不登校対策をはじめとした学校全体での組織的な生徒指導の推進
- 学校の重点目標や重点的取組を家庭・地域と共有し、目標達成に向けて三者連携の下、それぞれの取組を進める学校・家庭・地域の協働推進
- 学校段階をまたぐ教育課題の解決に向けて「芯の通った学校組織」の取組を一貫して進めるための、小・中学校間、中・高等学校間等の連携推進
- 分野横断的な教育課題の解決に向けた、心理や福祉等の専門性を有する人材の活用や福祉・警察等関係機関との連携強化

③地域とともにある学校づくりの推進

将来の地域を担う子どもを社会全体で育むため、地域の教育力を結集した地域とともにある学校づくりを推進します。

- 既存校の成果・課題の検証を踏まえた、コミュニティ・スクールの普及推進
- 「協育」ネットワークを活用した放課後や土曜日等の学習支援の充実
- 授業支援や登下校の見守りなど、学校と地域のコーディネート機能の充実
- 「おおいた教育の日」の取組などを通じた、学校教育と社会教育の連携強化



地域の参画・協働による体験活動

目標指標

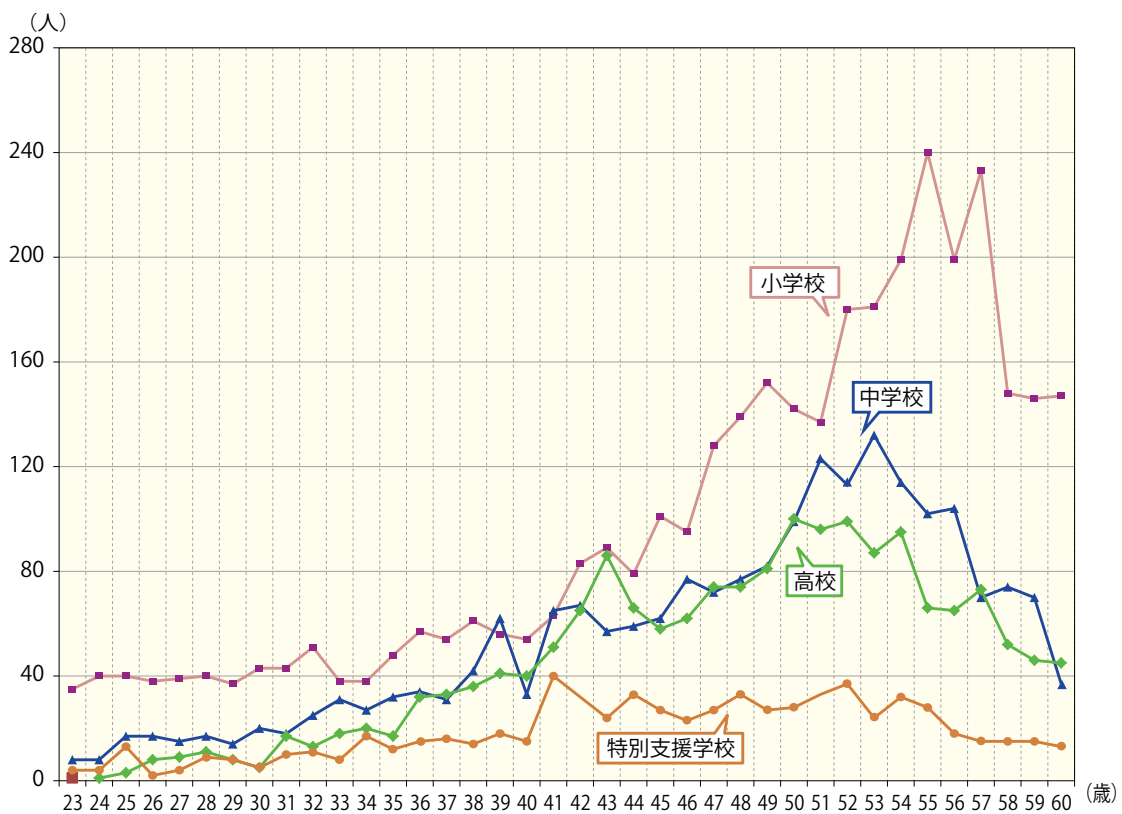
指標名	基準値	目標値		
		年度	H31年度	H36年度
学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実施率	小 16% 中 13%	H25	小 40% 中 30%	小 65% 中 45%
コミュニティ・スクールに指定された学校の割合	6.7%	H26	35%	50%
放課後チャレンジ教室等の活動に参加する児童数	0.8万人	H26	1.0万人	1.2万人

2 教職員の意識改革と資質能力の向上

■ 現状と課題

- 今後10年間で教職員の約半数が定年退職を迎える中、本県の教育課題に対応できる人材の確保とともに、ベテラン教職員の持つノウハウの継承を図るなど若手教職員の計画的な育成が求められています。
- 「芯の通った学校組織」の取組の深化を図る上で、管理職、主要主任等のミドルリーダーの養成とともに、学校教育課題への組織的な対応に向けた全教職員の意識の徹底が求められます。
- 精神疾患で病気休職になる教職員は平成21年度をピークとして減少傾向にあるものの、在職者比では依然として高水準で推移しています。また、教職員定期健康診断の結果によれば有所見率が高く、中でも生活習慣病の予備軍が多く見られるため、特に若年層の生活習慣の改善が必要です。
- 子どもの模範となるべき教職員が飲酒運転やセクハラ、体罰などの不祥事を起こすことは絶対に許されないことであり、これらを根絶する必要があります。

公立学校教員の年齢分布（平成27年4月1日現在）



※1 平成27年4月1日現在在職者の平成27年度年齢（H28.4.1時点の年齢）による年齢別人数分布
 ※2 対象は、校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭（充て指導主事も含む）

■ 主な取組

① 「教育県大分」を担う人材の確保・養成

子どもたちに未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育を着実に推進するため、「教育県大分」を担う人材の確保・養成を図ります。

- 求められる教職員像を踏まえた採用選考試験の実施・改善
- 「大分県教育庁チャンネル」や県内外の教員養成機関等を通じた、教員志望者等への大分県教育に関する情報発信の強化
- 多様な視点を取り入れた教員採用選考試験の実施による人材確保の推進
- 学校マネジメント能力を有し、学校改革に取り組む意欲に富んだ管理職の養成
- 管理職等の養成や教員免許取得・更新等における県内大学等との連携強化

求められる教職員像

求められる教職員像	着眼点	具体的内容
専門的知識をもち、実践的指導力のある人	専門性	・教科等に関する専門的知識 ・学習指導や生徒指導等に関する実践的指導力 等
使命感にあふれ、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人	人間性	・強い責任感や思いやりの心 ・教育公務員としてのより高度な規範意識 ・円滑に教育活動を進めることができる対人関係能力 等
柔軟性と創造力をそなえ、未知の課題に立ち向かう人	社会性 創造性 たくましさ	・広い視野、柔軟な発想、企画力 ・困難なときにこそ常に創造力を発揮し、新しい課題に果敢に取り組む姿勢 等
学校組織の一員として考え行動する人	組織人としての自覚	・学校組織の一員として考え行動する姿勢 ・校長のリーダーシップのもと、教育課題の解決に組織として取り組む姿勢 等

②資質能力の向上と適材適所の配置

教職員が意欲を持って業務を遂行でき、全県的な教育水準の維持向上にも資するよう、資質能力の向上と適材適所の配置を推進します。

<資質能力の向上>

- 教職員のキャリアステージに応じた計画的・体系的な研修（OJT・Off-JT）の充実
- 「芯の通った学校組織」の取組を下支えする学校マネジメント研修の充実
- 「教育県大分」の創造に向けた教育研究団体等の活用
- 人事評価の人事・給与への適切な反映など教職員評価システム^{（※29）}の効果的運用を通じた人材育成の推進



N I E（新聞を活用した授業づくり）研修

<適材適所の配置>

- 教職員の資質能力向上と全県的な教育水準の維持向上に資する、広域人事異動の推進
- 小・中・高・特別支援学校の校種間連携のための人事交流の推進
- 学校マネジメントの中核を担う主幹教諭、指導教諭の配置促進
- 学級担任への正規教員の配置促進

※29 教職員評価システム……学校の重点目標等に基づいて、教職員が自己目標を設定し達成状況を自己申告する「目標管理」と、校長等が教職員の「能力」「姿勢・意欲」「実績」を相対的に評価する「能力評価」の2つの柱で構成されるシステムのこと。教職員が、学校の教育目標達成に向け日常の教育活動に意欲を持って取り組むことをねらいとしている。

③校務環境の整備

教職員が各自の役割に応じて持てる資質能力を十分に発揮し、学校が組織として十全に機能するよう、校務環境の整備を推進します。

- 「学校現場の負担軽減プロジェクトチーム」の取組や「学校現場の負担軽減ハンドブック」の活用促進を通じた、学校における事務効率化や会議の縮減等の推進
- 「特定事業主行動計画」に基づく育児支援のための教員配置等の検討
- 学校支援センターによる学校運営支援機能の強化
- 服務・給与等の事務処理システム（総務事務システム）の導入や生徒情報等を管理する校務支援システムの充実
- 校務用パソコンや複合機等、校務処理に必要な I C T 機器の計画的な整備

④健康の保持・増進

教職員が教育活動に専念し、持てる資質能力を十分に発揮できるよう、教職員の心身の健康の保持・増進を図ります。

- 「こころのコンシェルジュ^(※30)」による学校訪問など、メンタルダウンの未然防止、早期対応、職場復帰と再発予防の推進
- 生活習慣病の予防に向けた教職員への健康支援の充実

⑤服務規律の徹底

子どもの模範となるべき教職員の不祥事を根絶するため、服務規律の徹底を図ります。

- 服務研修テキスト等を活用した研修の充実
- 高い倫理観と厳しい自律心を持つ教職員の養成

目標指標

指標名	基準値	年度	目標値	
			H31年度	H36年度
主幹教諭の配置対象校への配置率 小中学校：12学級以上 ^(※31) 県立学校：全ての学校	小 25.0% 中 75.0% 高 5.9% 特 0%	H26	小 100% 中 100% 高 100% 特 100%	
指導教諭の配置対象校への配置率 小中学校：12学級以上 ^(※31) 県立学校：全ての学校	小 28.4% 中 30.6% 高 47.1% 特 0%	H26	小 100% 中 100% 高 100% 特 100%	
若年層（40歳未満）の定期健康診断有所見率	70.5%	H26	65%	60%

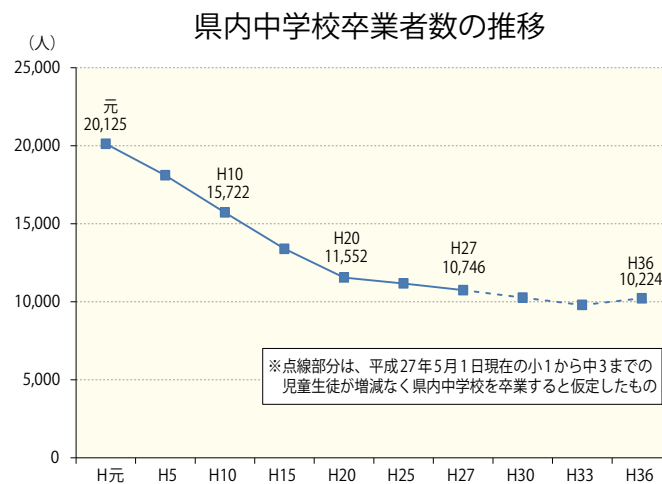
※30 こころのコンシェルジュ……教職員が抱える心の問題を早期に発見・解決するため、学校を巡回し教職員と面談する相談員のこと。

※31 12学級未満の学校への配置にあたっては、市町村の状況や当該校の実情等を総合的に勘案する。

3 魅力ある高等学校づくりの推進

■ 現状と課題

- グローバル化の進展、少子化による生徒数の減少など、高等学校教育を取り巻く環境が大きく変化中、新しい時代に相応しい魅力ある高等学校づくりが求められています。
- 生徒が未来に夢や目標を持ち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を身に付けることができるよう、進学・就職を見据えた高等学校教育の質の確保・向上が求められています。
- 地域に信頼され、選ばれる学校となるため、地域のニーズを踏まえた特色ある高等学校づくりを推進する必要があります。
- 地方創生が大きな課題となる中、専門高校には、各分野における専門人材の育成を通じて地域産業の活性化に貢献する役割が、これまで以上に求められています。
- 経済的な理由により高等学校への修学が困難な生徒に対し、教育費の負担を軽減し、教育の機会均等を図ることが求められています。



【出典】学校基本調査（文部科学省）

■ 主な取組

① 高等学校教育の質の確保・向上

生徒が主体的に学び、自身の未来を切り拓いていくことができるよう、進学・就職を見据えた高等学校教育の質の確保・向上を図ります。

<共通>

- 校長のリーダーシップの下、魅力ある高等学校づくりに向けた組織的な取組の推進
- 主体的・協働的な学びを重視した指導の充実など、高大接続改革を見据えた授業改善の推進
- 「授業改善スクールプラン」、「授業改善マイプラン」の活用促進
- スーパーグローバルハイスクール（SGH）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校等の先進的な取組の波及
- 第三者評価を含む学校評価を通じた学校運営の継続的改善



SGHにおける課題研究

<専門教育>

- 多様な学習ニーズや進路希望に応える専門教育の充実
- 商工労働・農林水産部局や地域の関係機関等との連携強化
- 専門的な知識・技術・技能の習得・向上に向け、他県との連携を含めた実習設備等の整備

②特色ある高等学校づくりの推進

地域に信頼され、選ばれる学校となるため、地域のニーズを踏まえ、地域の活力ともなる特色ある高等学校づくりを推進します。

- コミュニティ・スクールの導入など地域と協働した学校の活性化
- 市町村立中学校と連携した教育活動の充実など地域に根ざした特色化の推進
- 地域産業界と連携した専門教育の充実など、地域を担う人材育成の推進
- 地方創生にも資する地域の高等学校の在り方の検討

③修学支援の充実

全ての意志ある生徒が安心して教育を受けることができるよう、経済的理由によって修学が困難な高校生に対する修学支援を充実します。

- 高等学校等就学支援金の支給による授業料負担の軽減
- 低所得世帯への高校生等奨学給付金（奨学のための給付金）の給付による教育費負担の軽減
- 優秀な生徒等で経済的理由により修学が困難な者に対する奨学金の充実
- 高等学校定時制・通信制課程への修学を促進するための「高等学校定時制課程及び通信制課程修学奨励金」の貸与

目標指標

指標名	基準値	目標値		
		年度	H31年度	H36年度
授業がわかると感じる生徒の割合（再掲）	高 34.5%	H26	高 50%	高 65%
主体的に学ぼうとする生徒の割合（再掲）	高 10.8%	H26	高 30%	高 50%